

関係節は日本語文処理研究で どのように扱われてきたか

応用言語学講座第10回公開講演会／日本語教育学講座第20回公開講演会

後援:2011年度国際言語文化研究科教育研究プロジェクト経費

講

師

澤崎宏一先生
(静岡県立大学国際関係学部・准教授)

日

時

2011年12月20日(火) 午後4時半～6時

会

場

名古屋大学・全学教育棟北棟406室

日本語の関係節処理について、先行研究を振り返ります。文の逐次処理、再解釈、他言語との類似性、ワーキングメモリ、名詞の有生性など、関係節は興味深い問題を多く含んでいます。通常は、ある特定の仮説を検証するための材料として関係節が取り上げられることが多いですが、ここでは、どのような研究目的のために関係節にスポットがあてられてきたかという観点から考えてみます。L1の内容を主に、時間が許せばL2の話も含めるといった形になると思います。

来訪歓迎・申し込み不要

問い合わせ先: 稲垣俊史 (inagaki@lang.nagoya-u.ac.jp)